

令和 6 年 4 月 23 日現在

機関番号：23603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00464

研究課題名（和文）グローバル・エマソン 鈴木大拙を起点として

研究課題名（英文）Global Emerson, starting from Suzuki Daisetsu

研究代表者

高梨 良夫（Takanashi, Yoshio）

長野県立大学・その他部局等・特命教授(2019-)・研究員(2023)

研究者番号：50163225

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：エマソンの超越主義思想と特に鈴木大拙の禅仏教論、浄土系仏教論などに代表される大乘仏教の教義を中心としながら、さらにスウェーデンボルグ、ヤコブ・ベーメ等のヨーロッパのキリスト教神秘主義思想、イギリス・ロマン主義の詩人・思想家コールリッジ、ドイツ観念論哲学者シェリング、陽明学などの新儒教の教義との比較・影響・受容関係の考察を通じて、類似点及び相違点を明確にすることにより、グローバルな視点からエマソンの思想の現代的意義を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

エマソンが日本の明治・大正時代に愛読されたのは歴史的事実になってしまっているが、グローバルな規模の社会・価値観の変動期に直面している21世紀の今日、19世紀に文化・社会秩序の変換・危機的状況に直面し、新たな思想を展開したエマソンの積極的再評価が試みられている。エマソンの超越主義思想と鈴木大拙を中心とする大乘仏教の教義等との比較的考察を通じて、アメリカ文化・思想・宗教と日本・東洋の文化・思想・宗教との間の影響・受容・対立関係を解明しようとする本研究により、エマソン思想の現代的特質を明確し、グローバルな視点からのエマソンの再評価に貢献出来ると考える。

研究成果の概要（英文）：Takanashi, research representative, has given comparative investigations of R. W. Emerson's Transcendentalist thought, the doctrines of Mahayana Buddhism focusing on Daisetsu Suzuki's views on Zen and Pure Land Buddhism, Swedenborg's and Jacob Boehme's European Christian mysticism, Coleridge's and Schelling's Romantic ideas, and Wang Yangming's Neo-Confucian doctrines. Furthermore, he has investigated the influences of these ideas on Emerson, clarified their similarities and differences, and considered the modern aspects of Emersonian ideas from global viewpoints. (73 words)

研究分野：人文学

キーワード：エマソン 鈴木大拙 アメリカ超越主義 大乘仏教 浄土系仏教 キリスト教神秘主義 王陽明 親鸞

1. 研究開始当初の背景

米国ではグローバルな視点からのエマソン像の解明を試みる動向にあり、高梨も学術書『エマソンの思想の形成と展開 朱子の教義との比較的考察』（2011年）*Emerson and Neo-Confucianism: Crossing Paths over the Pacific* (2014) を公刊し、エマソンの思想と新儒教（特に朱子）の教義との比較的考察に関する環太平洋の視点からの研究成果を既に発表していた。エマソンの思想と東洋の思想・宗教との比較考察の次の段階としたのは、エマソンの影響も受けた鈴木大拙の大乘仏教の教義との間の比較考察を中心とする研究であった。

2. 研究の目的

日本人の研究者としての視点から、グローバル、環太平洋的な視点からエマソンの超越主義思想と鈴木大拙の大乘仏教の教義との間の比較的考察を試みることを通じて、両思想家の思想の類似点・相違点を明確にし、エマソン思想の現代的特質に関する認識を新たなものにし、従来のエマソン像の修正を試みる。さらに比較的考察の対象を、鈴木大拙だけでなく、キリスト教神秘主義、ロマン主義、陽明学等の思想にまで広げる。

3. 研究の方法

- (1) エマソン、鈴木大拙の著作を中心に、大乘仏教、キリスト教神秘主義、コールリッジ、シェリング、王陽明などの教義・思想に関する英語、独語、漢文、日本語の基本的文献を精読し、影響・受容関係、エマソンの思想との類似点・相違点についての比較的考察を試み、グローバルな視点からエマソン思想を把握しようと努めた。
- (2) 本研究課題の研究成果に基づく論文を日本語・英語で執筆し、日・米の学会で口頭発表し（2020年度～21年度はOnline）、さらに日・米の学術誌、大学紀要に掲載した。
- (3) 本研究課題に関連する日・米の学会に対面及びOnlineで出席し、日・米の研究者と意見交換を試みた。
- (4) 東京大学附属図書館、東洋大学附属図書館、ハーヴァード大学ワイドナー、イェンチェン図書館等において、さらに図書館間貸借制度を利用して本研究課題に関する研究資料を収集した。
- (5) キリスト教神秘主義思想研究会に定期的に対面及びOnlineで出席し、ドイツ神秘主義思想に関する文献を精読し、また英・独・仏文学・思想・宗教研究者などと意見交換を行った。
- (6) 本研究課題に関する研究の遂行に関しては、新型コロナ感染拡大の状況下で、特に2020年度～22年度の間は、予定していた渡米し、米国の学会での対面での口頭発表、米国大学図書館での研究調査活動を計画通りに実施することが出来ず、当初見込んでいた研究成果を得ることが困難な状態であった。2023年度までの補助事業期間延長により渡米が実現し、当初の研究実施計画を何とか完了することが出来た。

4. 研究成果

- (1) エマソンの超越主義思想と鈴木大拙の大乘仏教の教義との比較的考察に関する研究成果としては、まず論文「アメリカ超越主義と鈴木大拙—エマソンからソローへ」

(2020年)を挙げることが出来る。この論文においては、エマソン、ソローの超越主義思想と鈴木大拙の禅仏教論をめぐって、自然、自己、言語の観点から、比較的考察を試み、類似点・相違点を指摘した。米国学会における口頭発表“Emerson’s “God-within” and Buddhist “Buddha-womb” (Pacific Ancient Modern Language Association, 2019)、及び“Daisetsu Suzuki and R. W. Emerson: Comparative Investigations from Religious Viewpoints” (Northeast Modern Language Association, Online, 2021)の内容に加筆して執筆した英語論文“Comparative Investigations of Daisetsu Suzuki’s Pure Land Buddhism and Emerson’s Religious Thought” (2022)を *Journal of East-West Thought* 誌に掲載した。この論文においては、エマソンの思想と大拙の大乗仏教論に関する比較考察の対象を禅仏教から浄土系仏教にまで広げ、超越者と人間の魂との間の「内在」と「超越」という視点から、エマソンの“God-within”、“Over-soul”と大拙の「仏性」、「阿弥陀仏」に関する比較的考察を試みた。さらに比較の対象を大拙の浄土系仏教論から親鸞の浄土真宗の教義にまで拡大し、論文「エマソンの「内なる神」と親鸞の阿弥陀仏 超越と内在をめぐる比較的考察」(2023年)を執筆し、対面で開催された米国学会において口頭発表“A Comparative Investigation of Emerson’s “God-within” and Shinran’s Amida-Buddha” (NeMLA, 2024)を試みた。

- (2) エマソンに対するヨーロッパのキリスト教神秘主義思想、ロマン主義思想の影響に関しては、論文「エマソンとヤコブ・ベームーコールリッジを媒介として」(2020年)、「スウェーデンボルグの「照応」の教義のエマソン、鈴木大拙への影響」(2021年)、口頭発表「後期エマソンに対するシェリングの影響」(日本英文学会、Online, 2021年)を挙げることが出来る。コールリッジ、シェリングはヤコブ・ベームの影響を受けており、両思想家を通じてベームの思想の影響が間接的にエマソンに及んでいる点を指摘した。
- (3) エマソンの思想と王陽明の教義に関する比較的考察に関しては、口頭発表「エマソンの超越主義思想と王陽明の「心即理」」(比較思想学会、対面、2022年)の内容に加筆し、『比較思想研究』誌に掲載した論文「エマソンの超越主義思想と王陽明の「心即理」」(比較思想学会、2023年)があり、エマソンの「内なる神」と王陽明の「心即理」の教義の類似点と相違点を中心に比較的考察を試みた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 9
2. 論文標題 エマソンの「内なる神」と親鸞の阿弥陀仏 超越と内在をめぐる比較的考察 『グローバルマネジメント』巻9（長野県立大学）、2023年12月、37 - 51 査読あり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 グローバルマネジメント	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 47・48合併号
2. 論文標題 書評：佐久間みかよ著『個から群衆へーアメリカ国民文学の鼓動』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロー研究論集	6. 最初と最後の頁 123-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 49
2. 論文標題 エマソンの超越主義思想と王陽明の「心即理」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較思想研究	6. 最初と最後の頁 133-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshio Takanashi	4. 巻 vol.12, no. 4
2. 論文標題 Comparative Investigations of Daisetsu Suzuki's Pure Land Buddhism and Emerson's Religious Thought	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of East-West Thought	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 5
2. 論文標題 スウェーデンボルグの「照応」の教義のエマソン、鈴木大拙への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバルマネジメント	6. 最初と最後の頁 19 - 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 -
2. 論文標題 Proceeding: 後期エマソンに対するシェアリングの影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本英文学会全国大会 Proceeding (Website)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 3
2. 論文標題 エマソンとヤコブ・ベーム コールリッジを媒介として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバルマネジメント	6. 最初と最後の頁 64-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 2
2. 論文標題 アメリカ超越主義と鈴木大拙 エマソンからソローへ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバルマネジメント	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨良夫	4. 巻 45
2. 論文標題 書評：Takayuki Tatsumi, Young Americans in Literature: The Post-Romantic Turn in the Age of Poe, Hawthorne and Melville (書評)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロー研究論集	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Yoshio Takanashi
2. 発表標題 A Comparative Investigation of Emerson's 'God-within' and Shinran's Amida Buddha
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高梨良夫
2. 発表標題 エマソンの超越主義思想と王陽明の「心即理」
3. 学会等名 比較思想学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高梨良夫
2. 発表標題 後期エマソンに対するシェリングの影響
3. 学会等名 日本英文学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshio Takanashi
2. 発表標題 R. W. Emerson and Daisetsu Suzuki: A Comparative Investigation from Religious Viewpoints
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshio Takanashi
2. 発表標題 Emerson's "God-within" and the Buddhist "Buddha-womb"
3. 学会等名 Pacific Ancient and Modern Language Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関